

三重大学教育学部附属中学校 1年 小泉 琥太郎「僕のふるさと」

小学二年生の夏、僕は長野県から三重県へ転校してきた。新しい教室のドアを開けたとき、知らない言葉のひびきや初めて聞く方言に少し戸惑い、自分だけがちがう場所にいるようで不安だった。そんな僕に「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれた友達がいた。その瞬間、三重県は知らない場所から、安心できる場所になった。

休みの日に家族で訪れた伊勢神宮の静かな空気、地域の人たちが大切にしているお祭り、当たり前のように交わされえる「おはよう」というあいさつ。その一つ一つに、人と人とのつながりを大切にする三重県の温かさを感じた。僕はこの場所で成長し、この場所に支えられてきたのだと思う。

だからこそ僕は、三重県を「誰もが安心して暮らせる県」にしたい。転校してきた僕がそうしてもらったように、悩んでいる人や困っている人が一人にならず、自分の居場所を見つけられる場所にしたい。その思いは、将来の夢にもつながっている。

僕の夢は裁判官になることだ。裁判官は人の話を最後まで聞き、証拠と法律に基づいて公平に判断する仕事だと思う。三重でもらった優しさを今度は社会に返し、苦しんでいる人の声を受けとめ、「ここにいていい」と思える社会をつくりたい。

未来の三重県民に伝えたいのは、違いをこわがらないで欲しいということだ。長野県から来た僕だからこそ気づけた三重県の良さがある。人それぞれの違いが、この県をもっと強く優しくしているのだと思う。

あの日勇気を出して声をかけてくれた友達のように、今度は僕が三重県を支える番だ。この大好きな三重県の未来のために、学び続け、夢に向かって歩んでいきたい。